

## 【米国】

# 米国航空業界における COVID-19 検査の現状

高木 大介 ワシントン国際問題研究所研究員

## 1. はじめに

米国においても新型コロナウイルス（COVID-19）の症例が再び増加している。コロナ禍にあっても観光需要を喚起すべく、多くの観光地が観光客に対して COVID-19 が陰性であることの検査証明を条件にその扉を再び開こうとしているが、肝心の COVID-19 の検査を十分に確保することが依然として困難なのが実情である。また、ハワイや他のいくつかの場所のように、到着前の 72 時間以内の結果が必要とされる場合は、さらに困難な状況となる可能性がある。この問題に対応するため、多くの航空会社や空港が医療関連企業と提携し、自宅または対面で米国食品医薬品局（FDA）が承認した検査を受診し、搭乗前に結果を受け取ることができるようにしている。本稿では、米国航空業界において、現状どのような COVID-19 検査プログラムが提供されているのかについて概括する。

## 2. 航空会社による検査

### 2.1 ユナイテッド航空<sup>1)</sup>

ユナイテッド航空は、ハワイ州の観光再開に向けた陰性結果要件（ハワイ州は、州外の旅行者が出発前 72 時間以内に検査で陰性になった場合、14 日間の自主隔離を免除される）に従う形で、ハワイ路線のみではあるが旅客向け検査オプションを発表した最初の航空会社だった。サンフランシスコ国際空港（SFO）からハワイに飛ぶ旅客は、空港における検査を受診するかドライブスルー検査を専用サイトから予約のうえ受診することができる。GoHealth 社が管理する SFO での検査の費用は 250 ドルとなっており、15 分で結果が判明する。一方、当該空港近くのユナイテッド航空の施設でのドライブスルー検査は結果が分かるまで 20～30 分を要し、費用は 110 ドルとなっている。サンフランシスコからハワイへの直行便で検査を受診する旅行者は、予定する便の 1 週間前にユナイテッ

ドからメールを受け取るか、ユナイテッドに直接電話することができる。

### 2.2 アメリカン航空<sup>2)</sup>

アメリカン航空は、ハワイ、コスタリカ、カリブ海諸国への路線を対象とした検査について、医療関連企業の LetsGetChecked 社及び CareNow 社と提携している。在宅検査は LetsGetChecked 社の専門家によるビデオ通話で診療を行い、費用は検査結果の速達費用を含め 129 ドルとなっており、約 48 時間で結果が通知される。対面検査については、ハワイ向けについてはアメリカン航空が拠点を置くダラス・フォートワースエリアで出発前の 72 時間以内に利用できる。費用は指定クリニックだと 150 ドル、空港では 249 ドルとなっている。アメリカン航空は自社ウェブサイト、乗り継ぎ便を利用している場合は自宅での検査を推奨しており、出発当日に検査を行う場合は、通常のチェックイン時間よりも更に 1 時間余裕を見ることを推奨している。同社自社ウェブサイトによれば、検査結果によってはフライトのスケジュール変更を受け付けるかまたは必要に応じて旅行クレジットを発行することとしている。またカリブ海諸国向けについてはマイアミ国際空港（MIA）において検査を行うことができる。

### 2.3 ハワイアン航空<sup>3)</sup>

ハワイアン航空は、旅客に対し 2 種類の検査オプションを提供している。サンフランシスコ国際空港とロサンゼルス国際空港（LAX）におけるドライブスルー検査の予約は 36 時間以内に結果が通知されることが保証されており、90 ドルで受診できる。旅行当日に結果が出るプレミアムオプションも 150 ドルで提供されている。また、Vault Health 社から提供される唾液収集による郵送検査キットを 150 ドルで利用することもでき、キットがラボに到着してから 24 時間以内の結果通知が保証されている。

## 2.4 ジェットブルー<sup>4)</sup>

ジェットブルーもハワイアン航空と同様に VaultHealth 社と提携しており、150 ドル相当の検査を 143 ドルで提供している。ジェットブルーは 9 月下旬、検査結果が 72 時間以内に通知される郵送での在宅検査を全旅客に対し提供すると発表した。旅客は、Vault Health 社のジェットブルー用 Web ページで、名前、電子メールアドレス及び確認コードを入力して検査を注文することができる。ジェットブルーはニュースリリースにおいて、「全ての旅行者は、目的地または再入国の際の旅行要件の確認を徹底し、旅程に従って適切なタイミングで検査するための最善の決定をし、混乱を避けるよう努めてほしい」と述べている。

## 2.5 アラスカ航空<sup>5)</sup>

アラスカ航空は、ハワイ向けの旅行者のために Carbon Health 社と提携してシアトルを皮切りに西海岸の臨時医療機関で検査を提供することとしている。検査は 135 ドルの費用がかかり、結果は 2 時間以内に通知される。10 月中はシアトルにおいてのみ検査を受診できるが、11 月以降はポートランド、サンノゼ、サンディエゴ、アンカレッジ、ロサンゼルスから再開されるハワイとの直行便に対応するため各地における検査を順次拡大していく予定となっている。

## 3. 空港による検査<sup>6)</sup>

### 3.1 タンパ国際空港

タンパ国際空港 (TPA) は、BayCare Health System 社と提携し、目的地や航空会社に関係なく出発及び到着の全旅客を対象とした空港検査プログラムを開始した。当該プログラムに基づき、メインターミナル内において PCR 検査とスピード抗原検査の両方が提供される。同サービスは試験的に 10 月 31 日まで実施予定だったが、11 月以降もサンクスギビングとクリスマスを除き今年いっぱい実施されることとなった。毎日午前 8 時から午後 2 時までウォークインベースで提供され、フライト後 3 日以内の旅客も旅行証明を提示すれば検査を利用できる。PCR テストの費用は 125 ドル、スピードテストの費用は 57 ドルとなっている。

### 3.2 アラスカ州内主要空港

14 日間の自主隔離を回避するため、アラスカ州では到着の 72 時間以内に行われた PCR 検査で陰性の結果を提示するよう旅客に要求している。検査せずに到着した場合は、アンカレッジ (ANC)、フェアバンクス (FAI)、ジュノー (JNU)、ケチ

カン (KTN) などのアラスカ州内の主要空港で受診することができる。アラスカ州の居住者は無料で受診できるが、非居住者は空港での検査に 250 ドルを支払う必要がある。到着時に検査を受けた旅行者は、結果が出るまで隔離されることとなる。

### 3.3 ジョン・F・ケネディ国際空港、ラガーディア空港、ニューアーク空港

ニューヨーク・ニュージャージー港湾公社 (PANYNJ) は、公益法人 NYC Health + Hospitals 社と協力し、ジョン・F・ケネディ国際空港 (JFK) とラガーディア空港 (LGA) に検査場を設置しており、10 月末にまず LGA の施設が開設されている。同検査場は午前 9 時から午後 7 時まで年中無休で営業しており、予約なしで利用できる。検査は PCR 検査を採用しており、結果は 3~5 日以内で判明、費用は無料となっている。また、JFK とニューアーク空港 (EWR) では XpresCheck 社と提携し、PCR 検査、スピード鼻腔スワブ検査及び血液抗体検査を提供している。これらの検査は非常に迅速な検査であり、15 分以内に結果を得ることができる。これら 3 つの検査のいずれかを利用するには、XpresCheck 社の Web サイトから予約する必要がある。JFK 内のクリニックでは 1 日当たり 500 人を検査し、EWR 内のクリニックでは 1 日当たり最大 350 人を検査する。費用は 1 回の検査で 75 ドル、抗体検査と PCR 検査の両方で保険なしで 90 ドルとなっている。なお XpresCheck 社は、LGA とボストン・ローガン国際空港にも検査場を開設する予定となっている。

### 3.4 バーリントン国際空港

GarnetHealth 社は、バーモント州のバーリントン国際空港 (BTV) に検査施設を新たに開設し、検査を提供している。検査場は、午前 8 時から午後 8 時まで年中無休で営業している。スピード抗原検査の費用は 125 ドル、PCR 検査の費用は 175 ドルとなっており、PCR テストの結果は 36~48 時間以内に判明する。検査を受けるには、事前にオンラインで予約する必要がある。

## 4. おわりに

欧米を中心として、各国政府が主導する自主隔離に代えて検査を実施するよう求める声が業界団体からも上がっている。例えば米国においては、航空会社のロビー団体であるエアラインズ・フォー・アメリカ (AAA)、国際空港評議会北米支部 (ACI-NA)、グローバル・ビジネストラベル協会、米国商工会

議所、米国旅行協会などが中心となり結成された「Coalition for Safe Alternatives to Quarantines」が、米国の運輸省、国土安全保障省、保険福祉省に書簡を送り、各州知事や国外のパートナーと協力して出入国制限や自主隔離といった措置を出発前検査や接触者追跡に置き換えるよう求めた<sup>7)</sup>。このように国際航空旅客輸送の再開に向け、出発前検査に関する動きが活発化する一方、一部の専門家からは、出発前検査は検査時点で陰性であることが証明されるに過ぎず、搭乗直前や飛行中に感染していないことを証明するものではないとの批判も聞かれ、一筋縄ではいかない状況が生まれている。国際航空旅客輸送の再開は航空業界にとって喫緊の課題であることから、今後も本件の動向に注目していくこととしたい。

#### 参考文献

- 1) <https://hub.united.com/2020-10-15-united-airlines-starts-customer-covid-19-testing-program-at-san-francisco-international-airport-2648216793.html>
- 2) <http://news.aa.com/news/news-details/2020/American-Airlines-Takes-First-Steps-to-Open-International-Markets-to-Travel-with-Preflight-COVID-19-Testing-OPS-DIS-09/default.aspx>
- 3) <https://newsroom.hawaiianairlines.com/releases/hawaiian-airlines-expands-pre-travel-covid-19-testing-options-with-convenient-at-home-service>
- 4) <http://blueir.investproductions.com/investor-relations/press-releases/2020/09-28-2020-194516403>
- 5) <https://newsroom.alaskaair.com/2020-09-30-Alaska-Airlines-to-offer-rapid-COVID-19-testing-for-Hawaii-bound-guests>
- 6) <https://www.afar.com/magazine/these-us-airports-to-have-covid-19-testing>  
<https://matadornetwork.com/read/airports-can-get-tested-covid-united-states/>  
<https://thepointsguy.com/news/laguardia-covid-testing/>
- 7) [https://www.ustravel.org/sites/default/files/media\\_root/document/CoalitionforSafeAlternativestoQuarantines.pdf](https://www.ustravel.org/sites/default/files/media_root/document/CoalitionforSafeAlternativestoQuarantines.pdf)